

評価者	都市整備部長	樋田 浩一
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	下水道・河川	施策の方針	水辺環境の整備・創出・管理
------------	----	--------	-------	---------------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	25.3%	平成27年度	27.8%	平成28年度	23.6%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

仕事の効果	お金の使い方			仕事の効果	お金の使い方			仕事の効果	お金の使い方		
	使いすぎ	ちょうどよい	足りない		使いすぎ	ちょうどよい	足りない		使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.9%	0.7%	0.0%	必要以上の効果	0.6%	0.9%	0.1%	必要以上の効果	0.5%	0.9%	0.2%
ちょうどよい	0.5%	52.4%	0.7%	ちょうどよい	0.7%	53.2%	1.1%	ちょうどよい	1.4%	55.2%	0.7%
効果不十分	1.4%	1.7%	10.0%	効果不十分	0.7%	2.3%	6.7%	効果不十分	1.1%	3.4%	8.0%

平成26年度

平成27年度

平成28年度

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

<妥当性の分析>
 平成28年度の結果として、仕事の効果、お金の使い方ともに「ちょうどよい」の数値が55.2%ともっとも高くなっているが、仕事の効果については「効果不十分」、お金の使い方については「足りない」が8.0%、次に「効果不十分」、「ちょうどよい」が3.4%となっており、費用対効果が足りないと感じている市民も比較的多いことが分かる。取組を知らない・わからないと答えた人の割合については、4.2%減っており、局地的な集中豪雨が多発している今日において、河川が氾濫しないよう河川整備等を的確に行っていることが市民へのアピールにつながっているものと考えられる。引き続き、良好な整備に努めたい。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	13.9%	56.5%	1.1%	28.6%	100.0%
平成27年度	14.4%	50.9%	1.4%	33.2%	100.0%
平成26年度	14.7%	52.1%	2.1%	31.1%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

①河川管理施設維持修繕や維持修繕工事については、適切な時期に実施する。(都整-32)
②普通河川、準用河川及び調整池のしゅんせつについては、全施設の現状把握を実施し、費用対効果を考慮して計画的に実施し、機能の確保を図るとともに適正な維持管理を行う。(都整-33、50)

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
都整-10	河川管理運営事業	1,459	1,489	6,195	6,140	0.6	0.6	b	B
都整-32	河川維持補修事業	15,819	32,563	23,601	40,454	1.0	1.0	b	A
都整-33	雨水施設維持管理事業	1,372	3,888	3,707	6,255	0.3	0.3	b	A
都整-50	雨水施設維持管理事業	13,417	13,965	20,194	21,655	0.9	1.0	b	B

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ①河川維持修繕工事準用河川小袋谷川の護岸工事を実施した。準用河川小袋谷川、普通河川滑川及び河川管理施設の維持修繕業務を実施した。(都整-32)
 ②準用河川及び調整池のしゅんせつを実施した。また、老朽化した機器が良好に作動するよう適正な維持修繕に努めた(都整-33、50)

【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成28年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

迅速な対応を図るため、河川維持管理協力団体及び市職員による定期的な巡回を実施した。
 河川管理施設の維持修繕業務や維持修繕工事については、安全性を考慮しつつ、低廉な工法を選定し実施した。
 雨水調整池やゲートの類等の雨水排水施設について定期点検及び自主点検を行い良好な状態を保持した。
 準用河川及び調整池のしゅんせつを行い良好な状態を保持した。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画に基づき施設の特性を踏まえ、予防保全型管理と事後保全型管理を効果的に組み合わせ、計画的かつ効率的な維持・管理・補修・更新・運営を行う。
 河川維持管理協力団体と更なる連携が必要であることから継続的な活動を支援する方法を検討する。
 河川管理施設の維持修繕業務や維持修繕工事については、適切かつ的確に実施する。

4 平成29年度の目標

- ①河川管理施設の維持修繕業務や維持修繕工事については、適切かつ的確に実施する。
 ②普通河川、準用河川及び雨水調整池のしゅんせつについては、費用対効果を考慮して計画的に実施し、施設機能の確保を図る。また、定期点検結果を基に適切な時期に実施するなど維持管理に努める。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	都整-32	事業名	河川維持補修事業							
指標の内容	準用河川の修繕					単位	m	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
準用河川において継続的な修繕が必要なため。	目標値	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0			
	実績値	23.0	27.0	15.2						
	達成率	65.7%	77.1%	43.4%						
整理番号	都整-33	事業名	雨水施設維持管理事業							
指標の内容	ゲート類の点検					単位	箇所	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
浸水対策としてゲート類の良好な機能維持が必要なため。	目標値	58.0	58.0	58.0	58.0	58.0	58.0			
	実績値	58.0	58.0	58.0						
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%						
整理番号	都整-33	事業名	雨水施設維持管理事業							
指標の内容	雨水調整池のしゅんせつ					単位	箇所	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
浸水対策として雨水調整池のしゅんせつは継続的な対応が必要なため。	目標値	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0			
	実績値	1.0	0.0	2.0						
	達成率	50.0%	0.0%	100.0%						

参考 前年度外部評価結果への対応

<p>鎌倉市民評価委員会からの指摘</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急対応もさることながら、「河川」「雨水」ともに中長期的計画のスムーズな推進が求められる。 ・「津波被害がほとんど発生しない状況」に結びつく事業と感ずるものがない。優先順位として、喫緊で修繕が必要な案件が市内にまだどの程度残っているのか明らかになっていない。 ・安全に関する取組は見えるが、目標にある、動植物の生息や憩いの場に対する取組が見えておらず、今後、こちらの方にも力を入れることが求められる。 <p>提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川に対して災害発生時の対応などが不明確であり、対応策を明らかにしつつ、災害時の鉄砲水による被害も想定して、引き続き防災対策に力を入れるべきである。 ・水辺環境の創出をすすめ、鎌倉らしい水辺環境を整えていくことが重要である。 ・鎌倉には河川敷公園が無いので、安全に水遊びが出来る公園などの整備を検討すべきである。 	⇒	<p>指摘への対応、コメント等</p> <p>社会基盤施設マネジメント計画に基づき、予防保全型管理に移行し、計画的に事業を進めます。</p> <p>準用河川、普通河川及び雨水排水施設等の調査を実施し、現状把握に努めます。優先順位を付け、計画的な事業を進めます。</p> <p>市民の生命や財産等を守ることを最優先に施設の整備・修繕等の事業を進めています。事業を進める中で、新しい取組手法を調査・検討していきます。</p>
<p>提言に関するコメント等(総論)</p> <p>大雨や台風による浸水被害から市民の生命や財産等を守るために必要な施設の整備・修繕を行う中で、景観についても配慮しつつ、事業展開を図っている。なお、本市の小河川においては、近年頻繁に発生する集中豪雨等による河川の急激な水位上昇や増水による溢水等が見込まれるため、河川敷公園の整備は難しいと考えます。</p>	⇒	

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・準用河川神戸川及び砂押川の根固工事を実施した。普通河川滑川や準用河川砂押川の維持修繕業務及び準用河川砂押川や小袋谷川のしゅんせつを実施した。
- ・河川施設の突発的な維持修繕業務や請負工事については、概ね対応できた。
- ・協力団体と連携し、良好な水辺環境を目指し、親しまれる川づくりを実施した。
- ・迅速な対応を図るため、定期的に巡回、維持修繕業務、工事などを実施した。
- ・大規模な自然災害に対応する下水道BCP(業務継続計画)を策定した。

		評価の内訳			⇒	委員会の評価
取組	↗	1	↘	0		→
効果	○	1	△	0	—	—

《課題》

- ・鎌倉の河川は大きな河川ではないが、海に直結している。津波被害発生を防ぐ施策を常に考えていることが重要である。
- ・河川維持管理協力団体と市の連携が十分に図られていないことは課題である。

《提言》

- ・全国的な異常気象に伴う集中豪雨、特に九州や東北に甚大な被害をもたらした規模の豪雨がいつ鎌倉を襲うかは判らないので、他との連携を持ってさらに一歩進んだ対策を、市民が安心して暮らせるまちづくりをしていただきたい。
- ・河川管理に関し、地域住民との協力体制をつくり上げ、良好な水辺環境を創出するべきである。
- ・市民の憩いの場となり、鎌倉らしい水辺環境にぜひしていただきたい。
- ・河川に対する安全対策については、今後も注視しながら整備を進めてほしい。
- ・一昨年度の評価委員会からの指摘・提案に対し「施設の現状把握を実施し、優先順位を付け、計画的・効率的に業務を実施し、限られた予算を有効に執行する。」とコメントしているが、それらに対する取組が見られない、計画性・効率性をどのように評価し優先順位をつけたのか明記していただきたい。
- ・一昨年度の評価委員会からの指摘・提案に対し「河川維持管理協力団体と連携できる事業や団体がさらにないか検討する。」とコメントしているが、それらに対する取組が見られない、どのような検討を行った結果、どうなったのか明記していただきたい。

《質問》

- ・「緊急性のある河川整備案件」は皆無か。あるとすれば整備出来ない理由は何か。準用河川の修繕が指標で実績15m(達成率42%)である。